

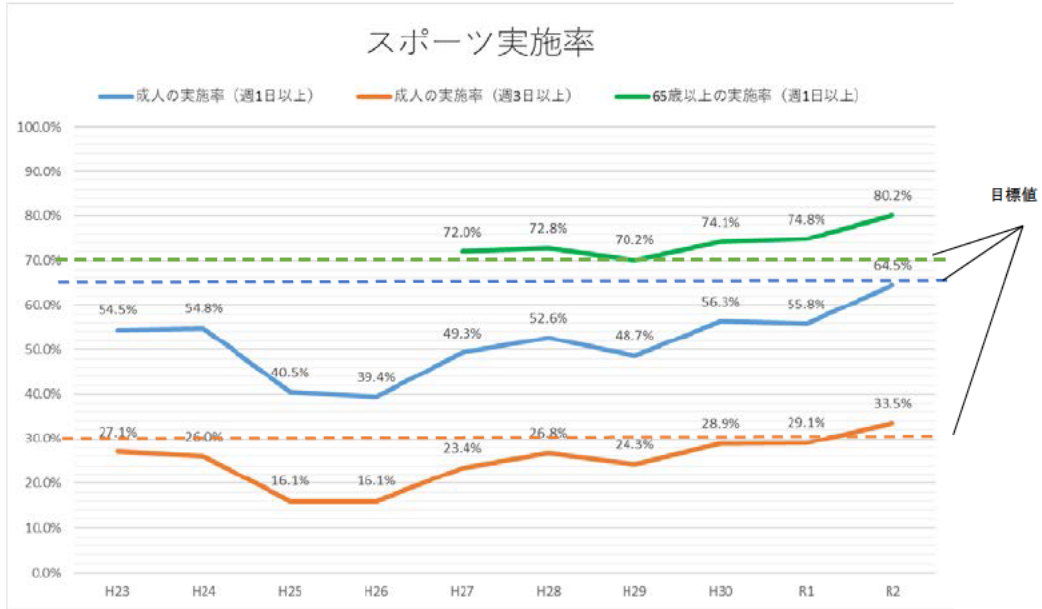
1 成人のスポーツ実施率について

(1) 横浜市民スポーツ意識調査結果の推移

ア 成人の実施率

成人の実施率は、いずれも上昇傾向にある。

項目	目標	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
成人の実施率（週1日以上）	65.0%	54.5%	54.8%	40.5%	39.4%	49.3%	52.6%	48.7%	56.3%	55.8%	64.5%
成人の実施率（週3日以上）	30.0%	27.1%	26.0%	16.1%	16.1%	23.4%	26.8%	24.3%	28.9%	29.1%	33.5%
65歳以上の実施率（週1日以上）	70.0%	—	—	—	—	72.0%	72.8%	70.2%	74.1%	74.8%	80.2%



(2) 令和2年度のスポーツ実施率について

成人・65歳以上ともに実施率が大幅に向上し、成人の週3日以上及び65歳以上の実施率は目標値を上回った。新型コロナウイルス感染症拡大により、健康への意識が高まったことや、自宅で過ごす時間が増え、健康・体力の維持・増進や運動不足解消のためにスポーツをする人が増えたことが、スポーツ実施率の向上に繋がったと考えられる。

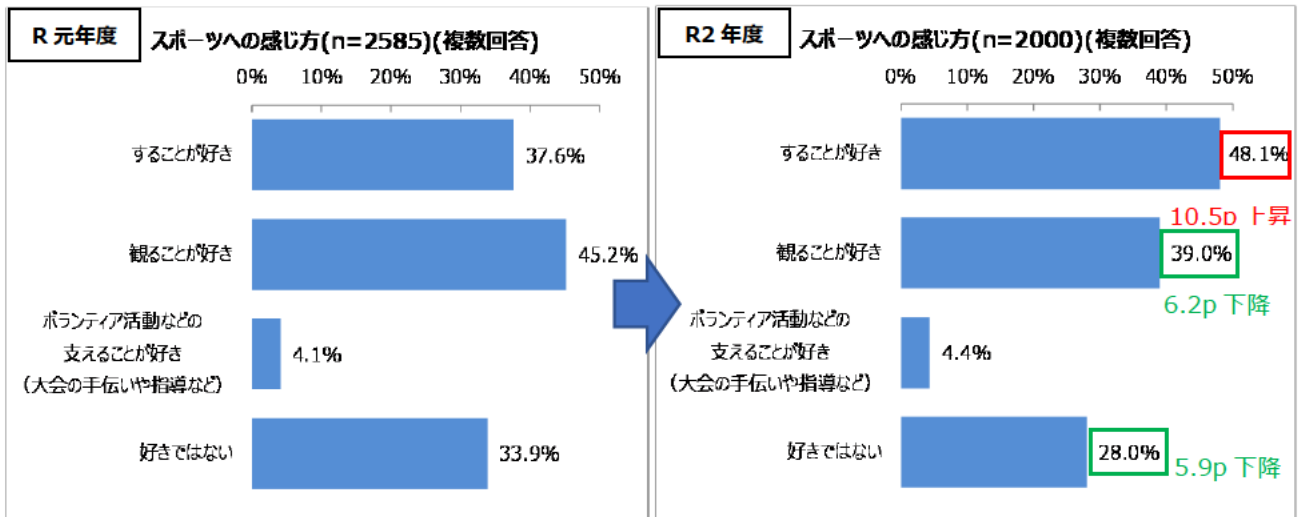
(3) 令和元年度からの変化

新型コロナウイルス感染症拡大に伴うスポーツの行動・意識の変化を、令和元年度の調査結果と比較した。

ア スポーツへの感じ方

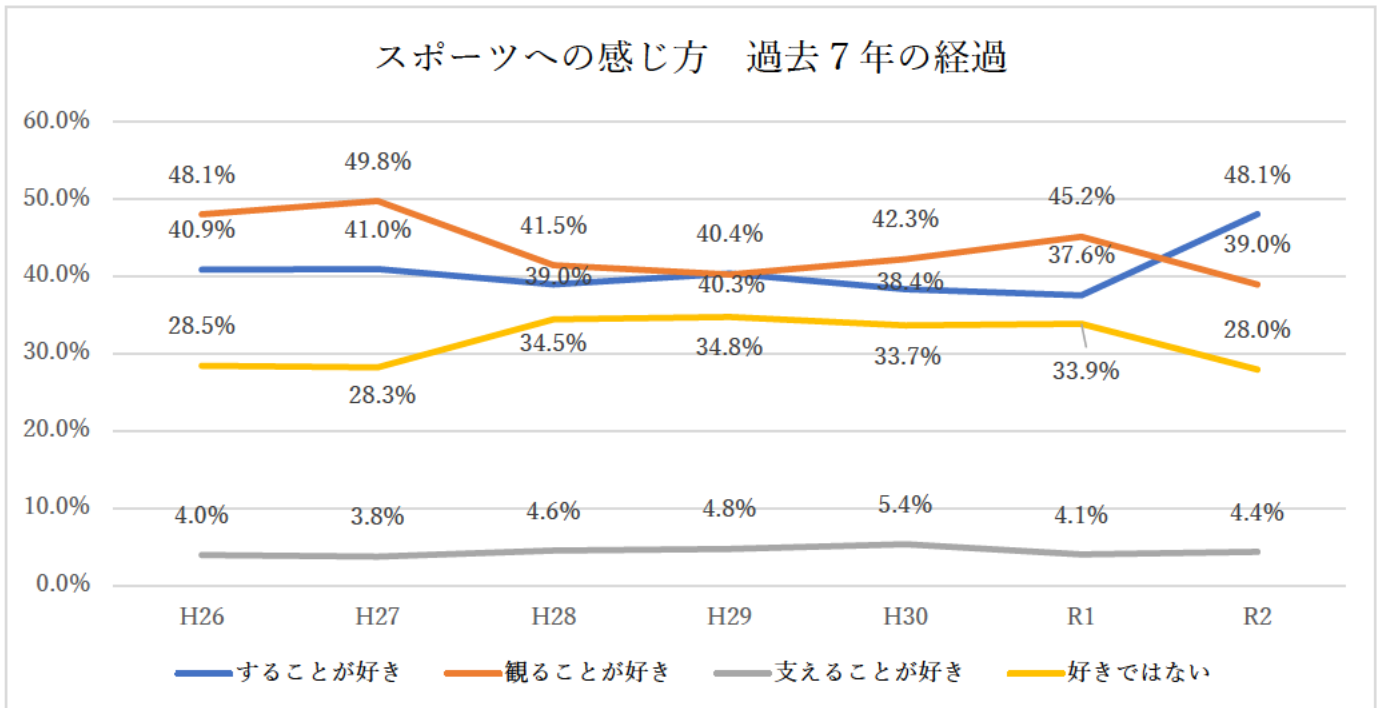
スポーツへの感じ方は、“好きではない”と“観ることが好き”の割合が減少し、“することが好き”が上昇していることから、能動的なかかわり方への意識の変化がみられる。

※複数回答可の場合、合計比率は100%を超える場合がある。



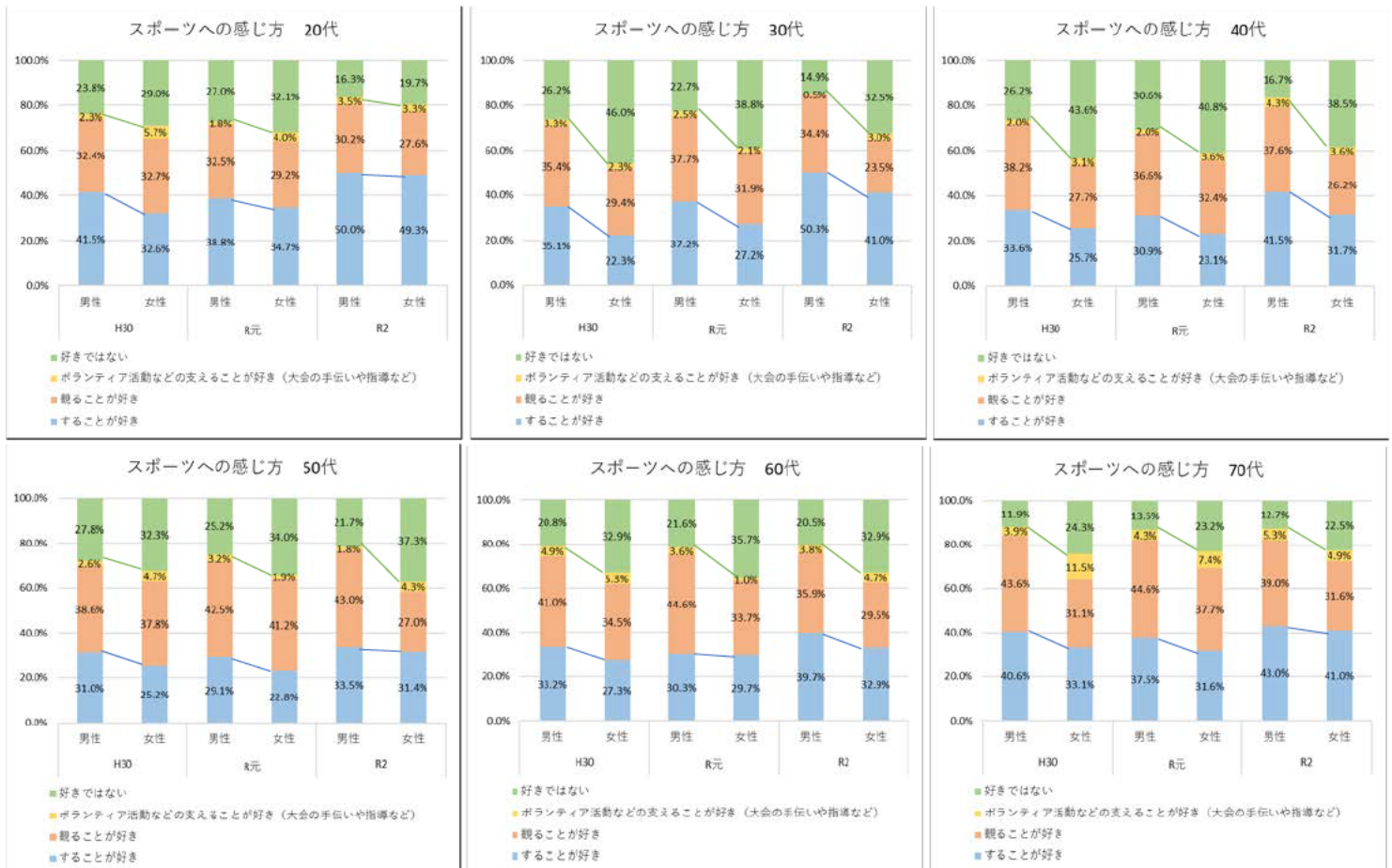
(参考1) 過去7年の経年変化

「することが好き」が例年横ばいだったが、令和2年度に大きく上昇した。「支えることが好き」は例年横ばいとなっている。



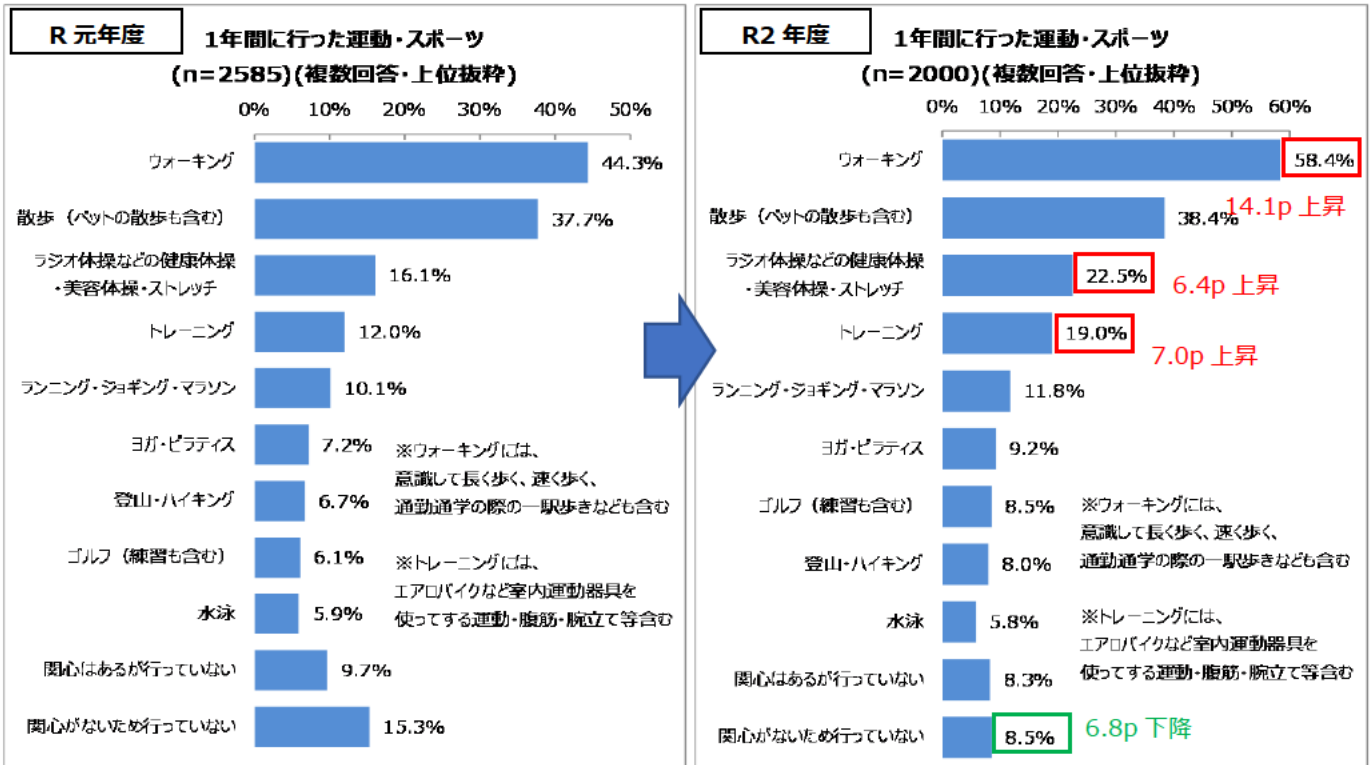
(参考2) 性年代別 過去3年の経年変化

女性は男性と比較して、どの年代も「することが好き」の割合が低く、「好きではない」の割合が高い。また、3年間で平均すると、「することが好き」は50代が一番低く（平均値 28.9%）、20代が一番高い（平均値 41.3%）。



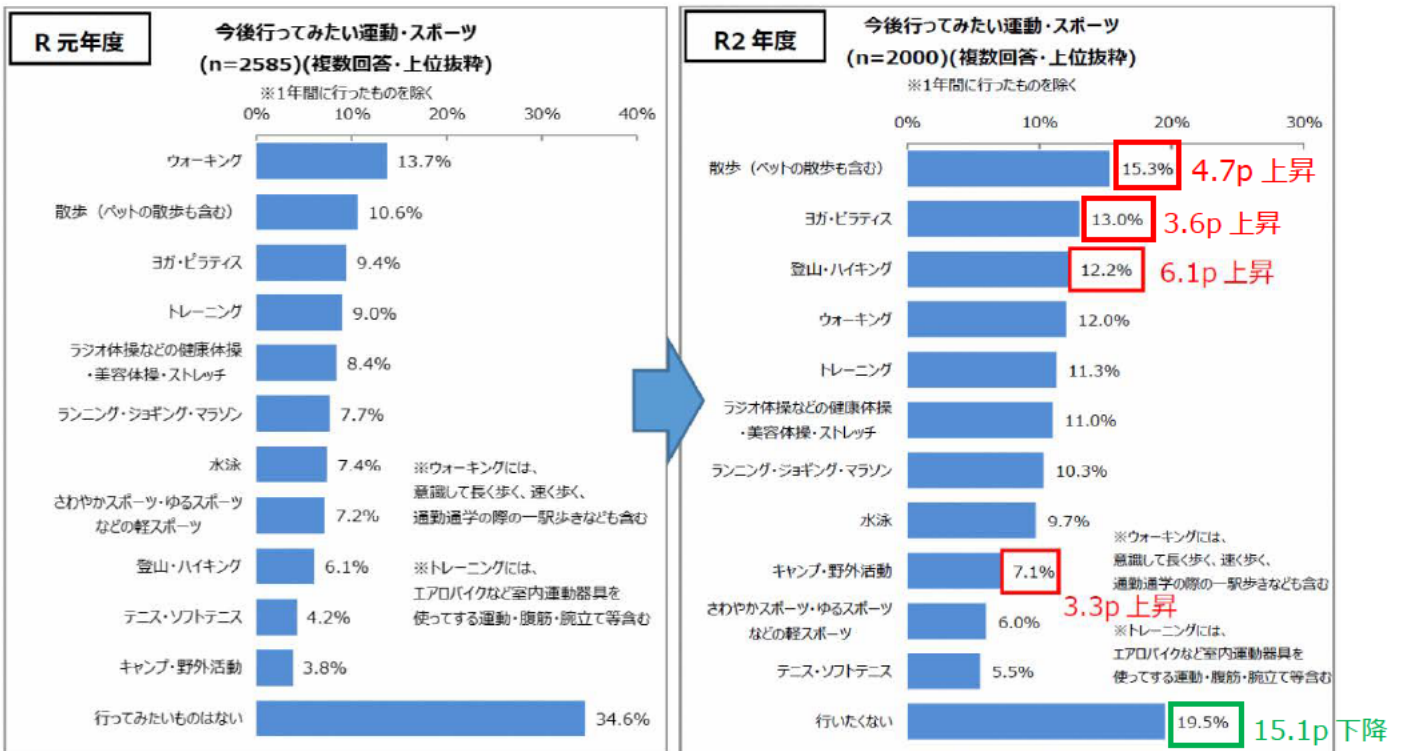
イ 過去1年間に行った運動・スポーツ

過去1年間に行った運動・スポーツは、「ウォーキング」「ラジオ体操などの健康体操・美容体操・ストレッチ」「トレーニング」など気軽にできる運動が上昇。



ウ 今後行ってみたい運動・スポーツ

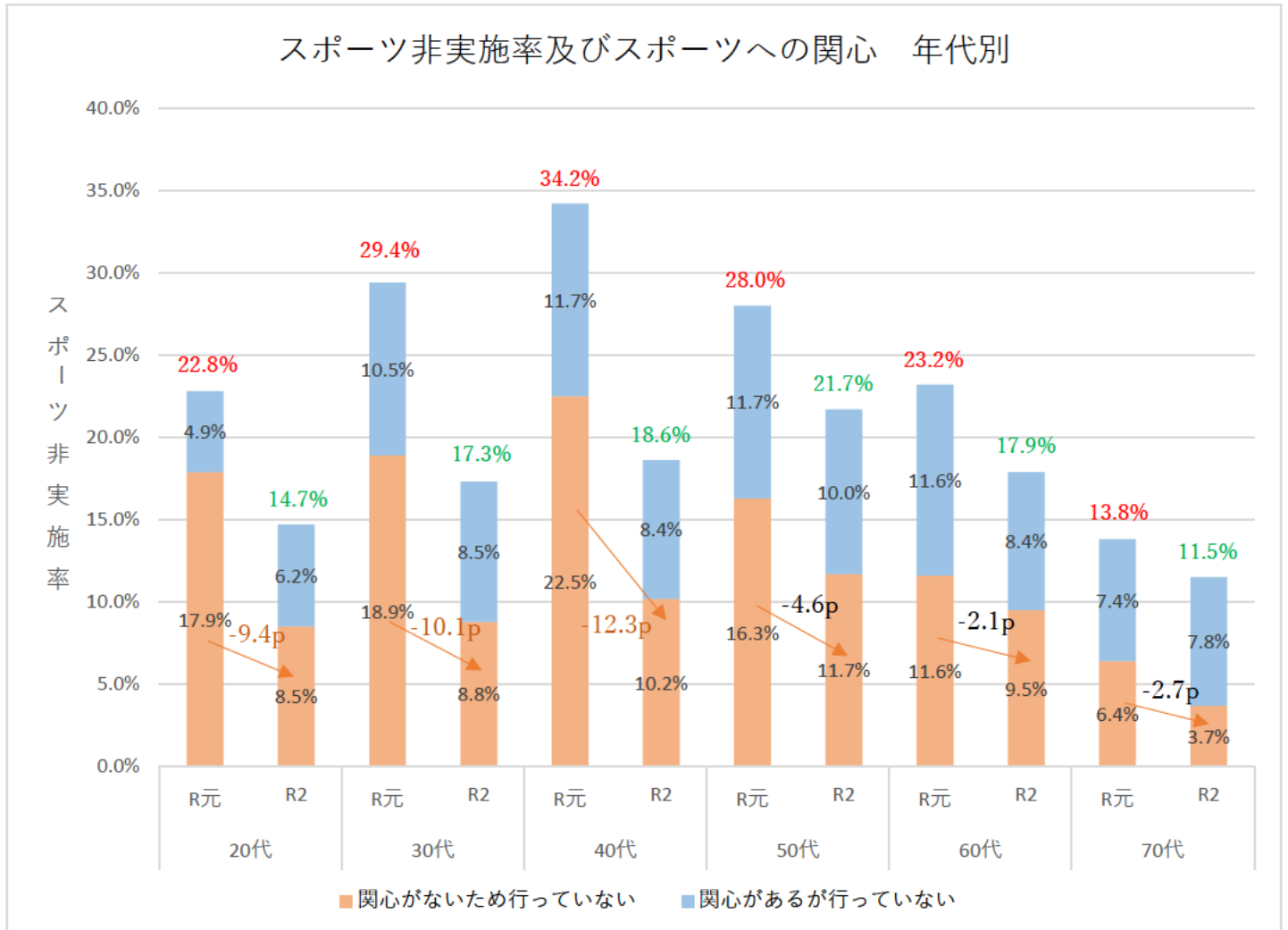
「散歩 (ペットの散歩も含む)」「ヨガ・ピラティス」「登山・ハイキング」「キャンプ・野外活動」が上昇。



(参考) スポーツ非実施率及びスポーツへの関心 (年代別)

令和元年度は40代、30代、50代の順でスポーツ非実施率が高い。令和2年度は50代、40代、60代の順でスポーツ非実施率が高い。

20代、30代、40代は、他の世代と比べ、「関心がないため行っていない」が大きく減少している。



2 障害者スポーツについて

(1) 横浜市民スポーツ意識調査結果の推移

障害のある方の実施率は、昨年度より **21.6** ポイント増え、目標値を **18.3** ポイント上回った。

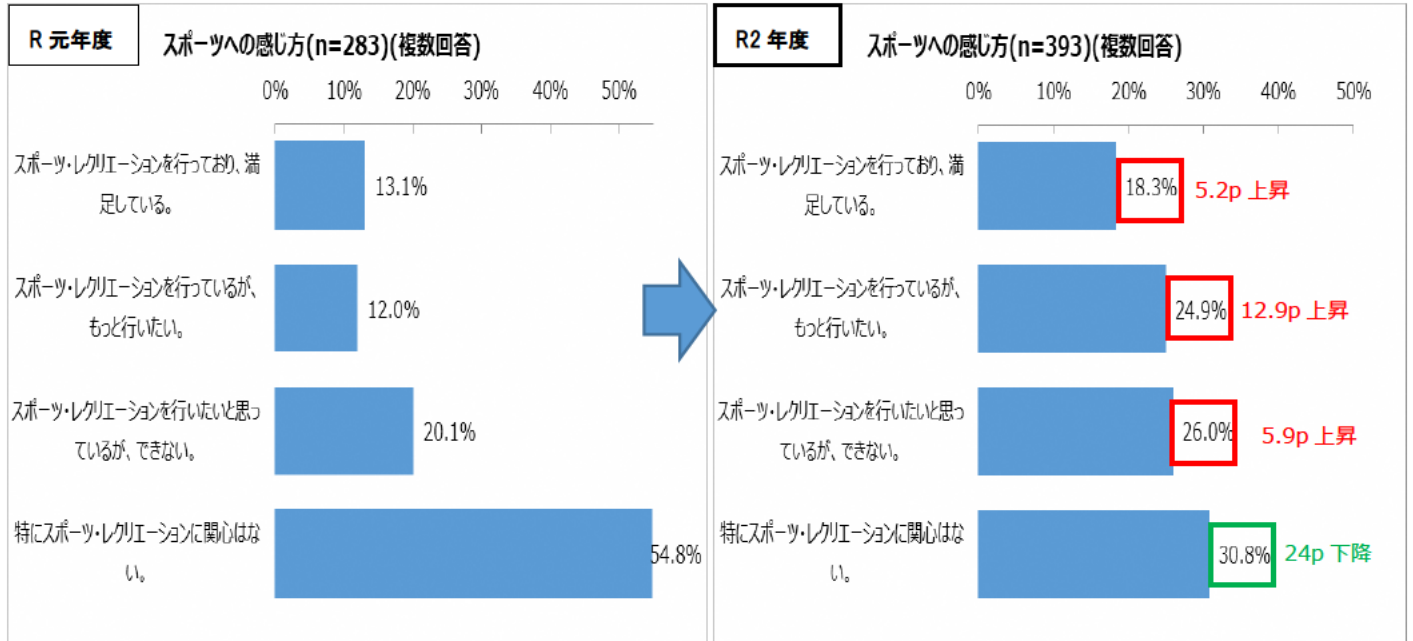
項目	目標	H30	R 1	R2
障害のある方の実施率（週1日以上）	40%	38.5%	36.7%	58.3%

-1.8p +21.6p

(2) 令和元年度からの変化 ※令和2年度の結果には、20歳未満の方の回答も含む。

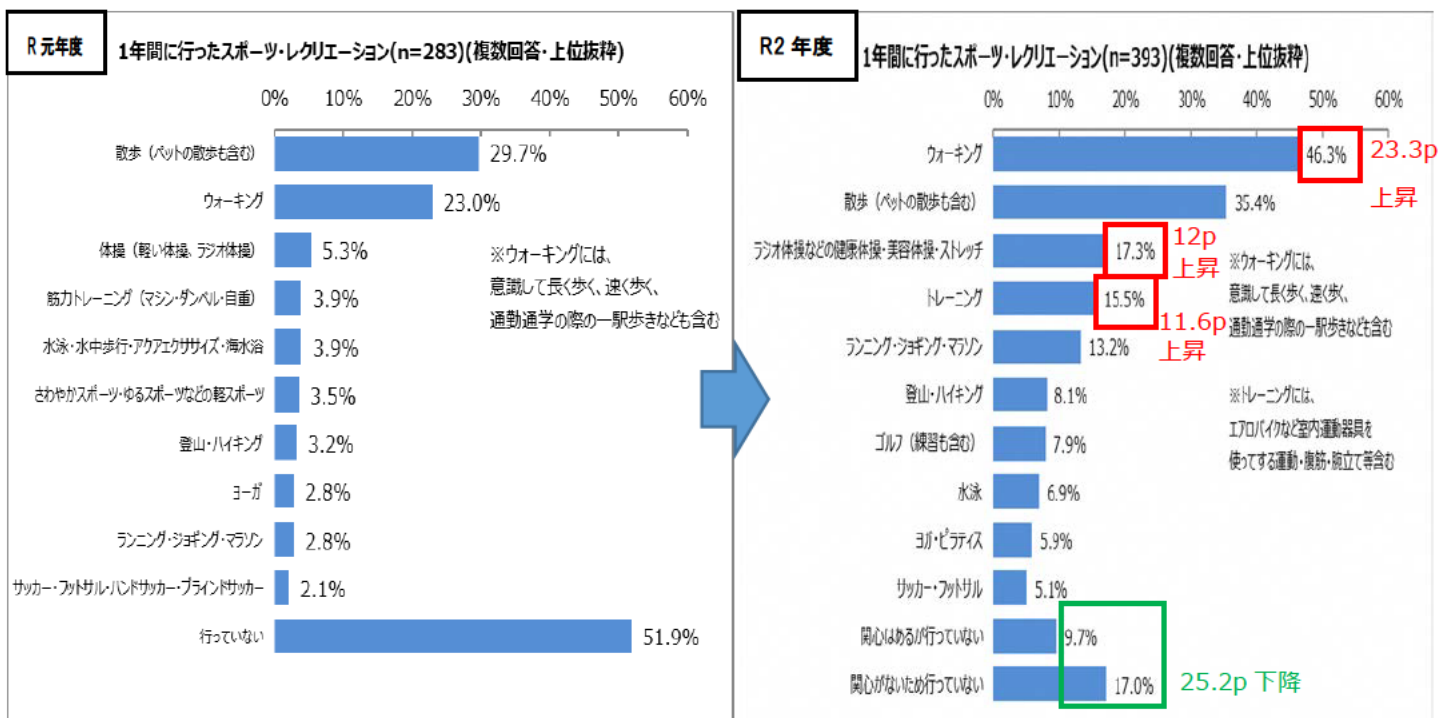
ア スポーツへの感じ方

スポーツへの感じ方は、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」が減り、その他の項目が全体的に上昇した。



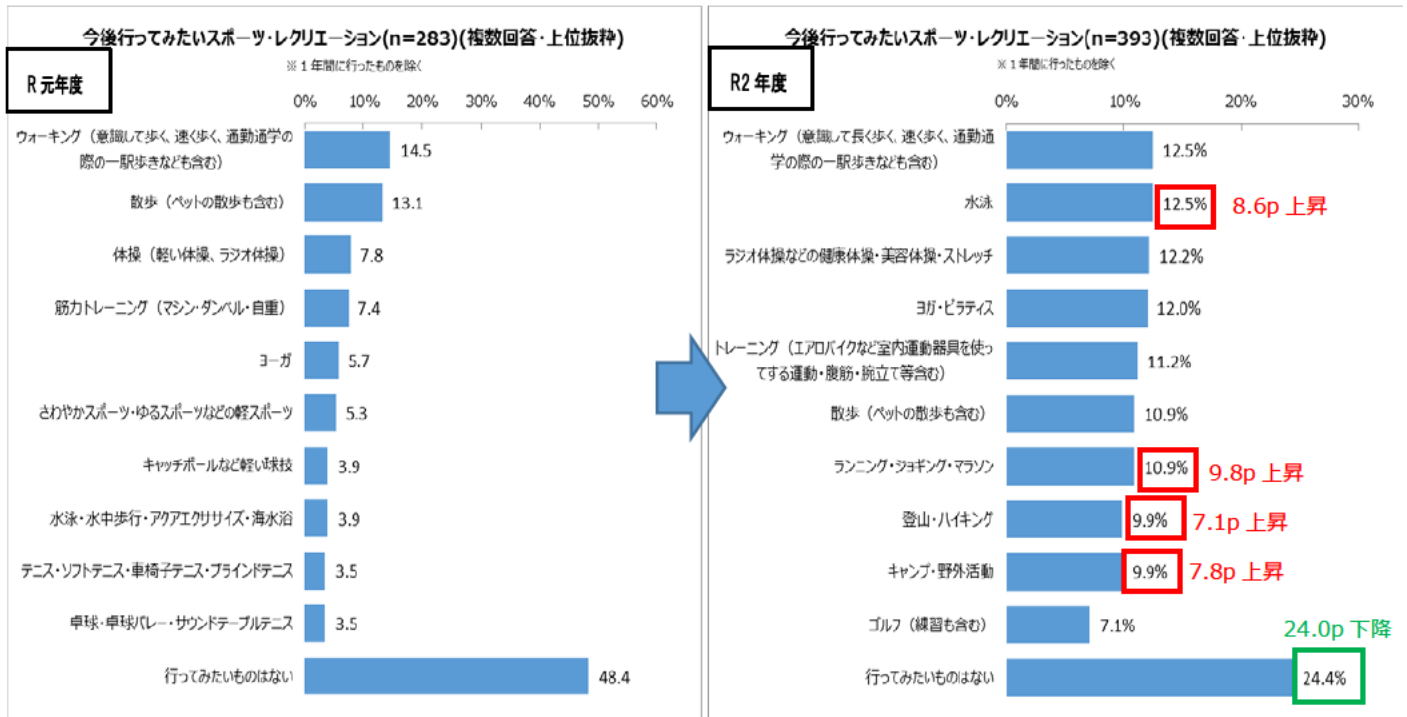
イ 過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション

過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーションは、「ウォーキング」「ラジオ体操などの健康体操・美容体操・ストレッチ」「トレーニング」など気軽にできる運動が上昇し、「行っていない」は減少。



ウ 今後行ってみたいスポーツ・レクリエーション

今後行ってみたいスポーツ・レクリエーションは、「水泳」「ランニング・ジョギング・マラソン」「登山・ハイキング」「キャンプ・野外活動」が上昇（「水泳」以外は令和元年度は11位以下）。「行ってみたいものはない」は減少。



3 次期計画における目標設定の方向性について

市民スポーツ意識調査の結果から、「成人のスポーツ実施率」「65歳以上のスポーツ実施率」「障害者のスポーツ実施率」の経年変化及び傾向について考察した。今年度の調査結果からは、現行の「横浜市スポーツ推進計画」にて設定した基本目標のうち、成人の実施率（週3日以上及び65歳以上）、障害者の実施率は目標を達成した。

次期計画における目標設定について、国の計画を参酌しつつも、以下の視点をもとに、横浜らしい方向性を検討していきたい。

(1) 今回の調査結果がコロナ禍における一過性のものかどうか。

(2) 施策的視点

ア 新型コロナウイルス感染症拡大により、健康への意識が高まり、健康・体力の維持・増進や運動不足解消のためにスポーツをする人が増えたと考えられ、新しい生活様式のもとで、どうスポーツ振興施策を講じるか。

イ スポーツへの感じ方は、女性は男性と比較して、どの年代も「することが好き」の割合が低く、「好きではない」の割合が高いことから、いかに女性へ働きかけるか。

令和元年度、2年度ともに、他の世代と比較すると40代～50代の実施率が低い状況にあり、この世代へどう働きかけるか。

(3) 数値を含む目標の視点

ア 65歳以上のスポーツ実施について、健康・体力づくりや介護予防、健康寿命の延伸につながるよう、数値を含め、目標はどうあるべきか。

イ 障害のある方のスポーツ実施について、ダイバーシティ&インクルージョンの意識を育み、スポーツを通じた共生社会の実現を目指すなかで、数値を含め、目標はどうあるべきか。

I 調査概要

- 1 目的 国の「スポーツ基本計画」を参考に策定された「横浜市スポーツ推進計画」において、「する」「みる」「ささえる」スポーツの向上に向けて、運動・スポーツの実施率等、横浜市における現状を把握するため、市民を対象としたスポーツ意識調査を実施した。また、その結果を活かし、本市スポーツ施策における各種事業の現状と課題について考察し、課題解決にむけた新たな政策立案等につなげていく。
- 2 対象者 (1) 横浜市に居住する満20歳以上の調査機関登録者（モニタ）
(2) 横浜市に居住する満20歳以上で、調査機関登録者（モニタ）のうち、本人もしくは同居の家族に障害のある方
- 3 抽出方法 (1) 性別・年齢・居住区の構成比率を基にモニタの中から有意抽出法により抽出
(2) モニタの中から有意抽出法により抽出
- 4 調査方法 インターネットによるアンケート調査
- 5 調査期間 令和2年10月9日（金）～10月26日（月）
- 6 回収状況 (1) 有効回答数：1,995件（ウェイトバック集計後2,000件） (2) 有効回答数：393件

※各区の人口構成比と調査設計のサンプルの割当て件数(2,000)でウェイトバック集計を行った。
※表中に複数回答の記載がある設問は、比率の合計が100%にならないことがある。

II 結果概要

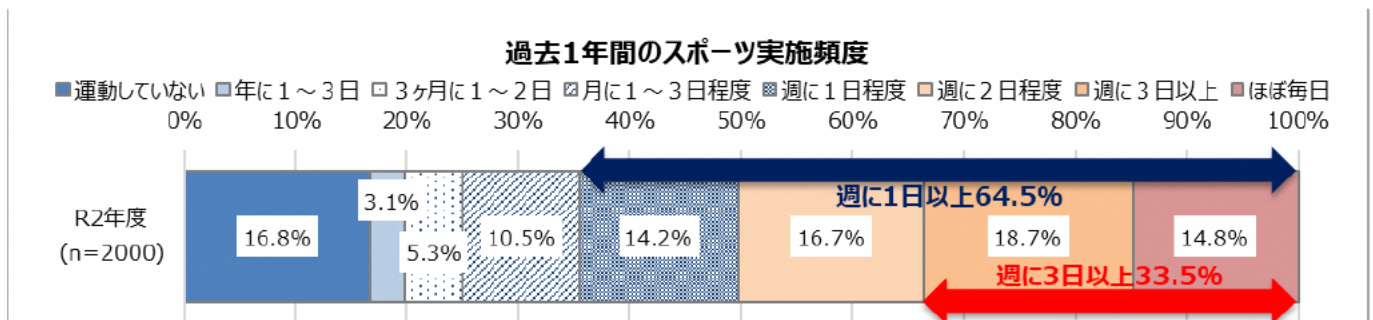
「する」スポーツ

●「週に1日以上」のスポーツ実施率は64.5%

令和元年度の55.8%より8.7ポイント増、横浜市スポーツ推進計画の目標（以下、市の目標）（65%）には0.5ポイント及ばなかった。

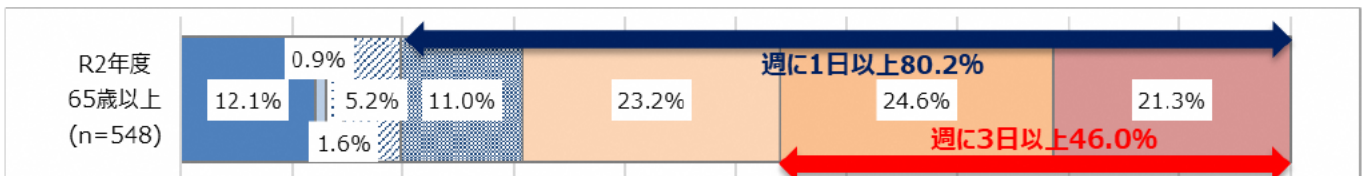
●「週に3日以上」のスポーツ実施率は33.5%

令和元年度の29.1%より4.4ポイント増、市の目標（30%）を3.5ポイント上回った。



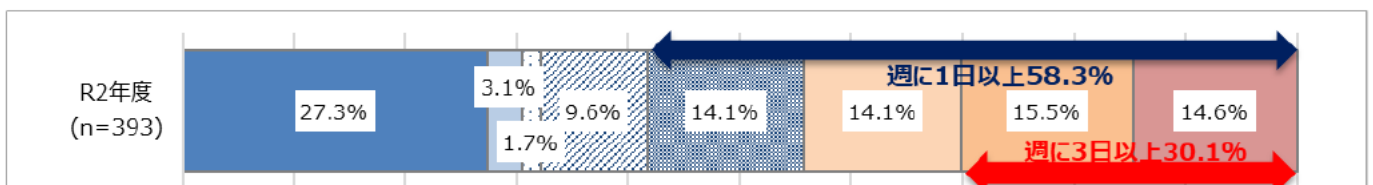
●65歳以上の「週に1日以上」のスポーツ実施率は80.2%

令和元年度の74.8%より5.4ポイント増、市の目標（70%）を10.2ポイント上回った。



●障害のある方の「週に1日以上」の実施率は58.3%

令和元年度の36.7%より21.6ポイント増、市の目標（40%）を18.3ポイント上回った。

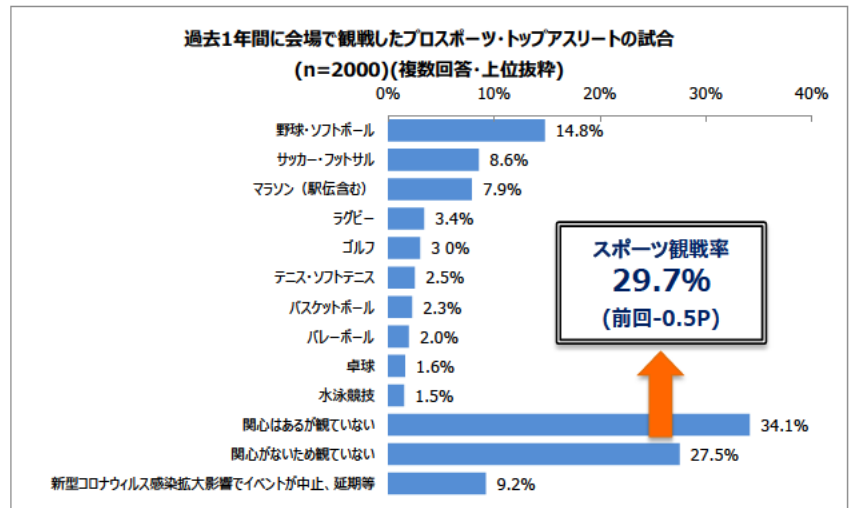


「みる」スポーツ

●過去1年間の会場での観戦率は29.7%

令和元年度の30.2%より0.5ポイント減、市の目標（50%以上）には20.3ポイント及ばなかった。

新型コロナウイルス感染症の影響により、トップスポーツの開催が制限されていたものの、観戦率に大きな影響はなかった。

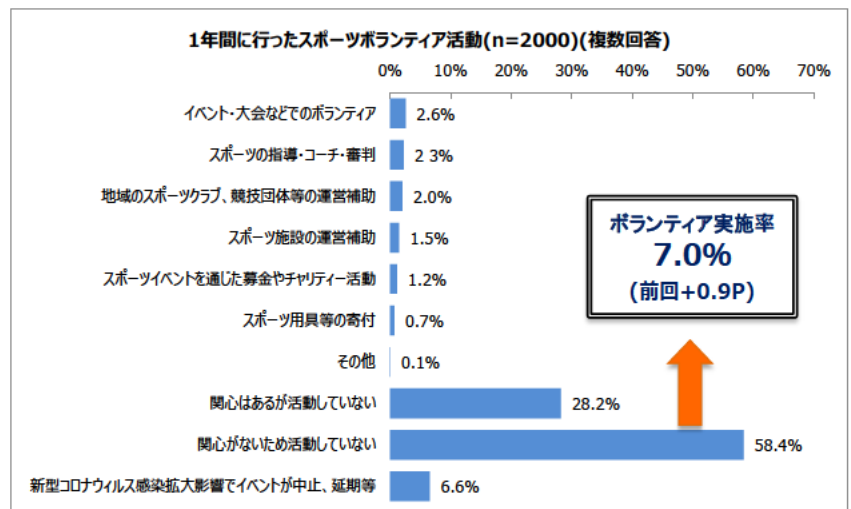


「ささえる」スポーツ

●過去1年間に行ったスポーツボランティア活動への参加率は7.0%

令和元年度の6.1%より0.9ポイント増、市の目標（10%以上）には3.0ポイント及ばなかった。

新型コロナウイルス感染症の影響によりスポーツイベント等が中止になったものの、参加率は増加する結果となった。

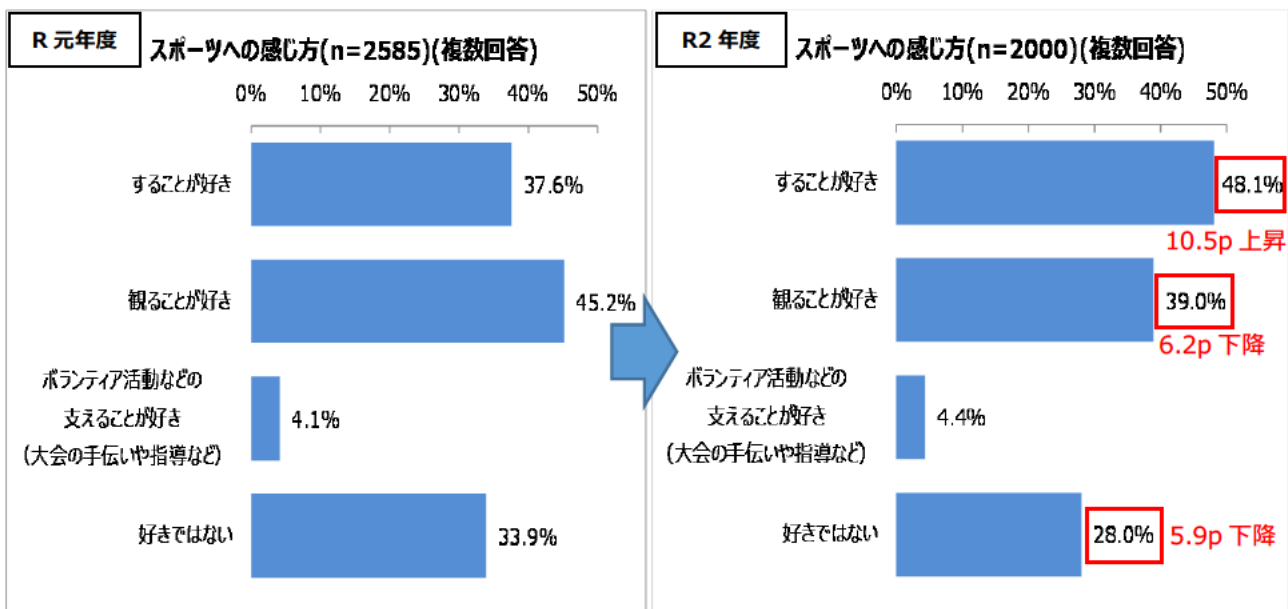


令和元年度調査からの変化

新型コロナウイルス流行に伴う緊急事態宣言下での行動・外出の自粛や、公共施設・スポーツ施設の活動・営業自粛などの下でのスポーツの行動・意識の変化を、令和元年度の調査結果と比較した。

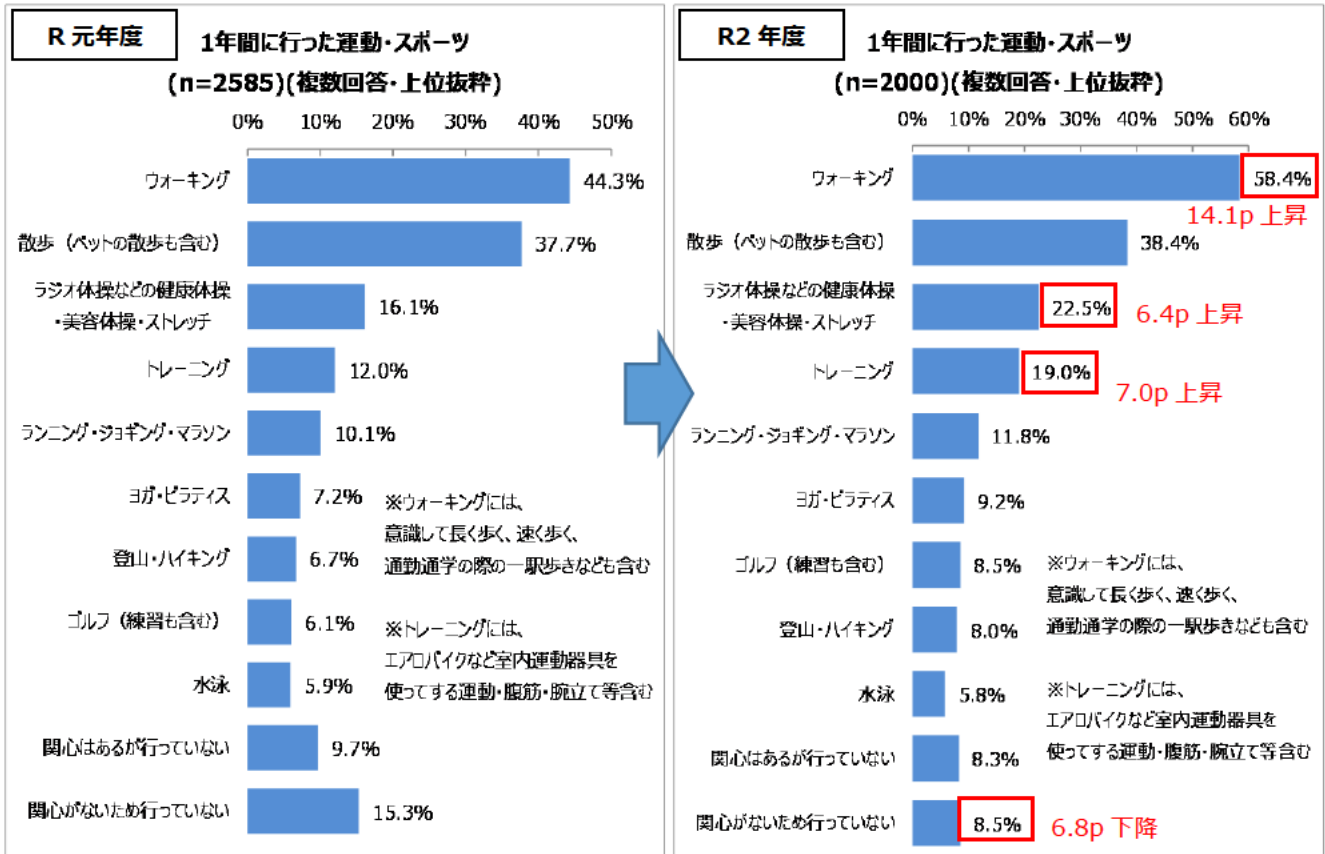
●スポーツへの感じ方の変化

スポーツに対して、“観る・好きではない”から“する”への能動的なかわり方への意識の変化がみられる。



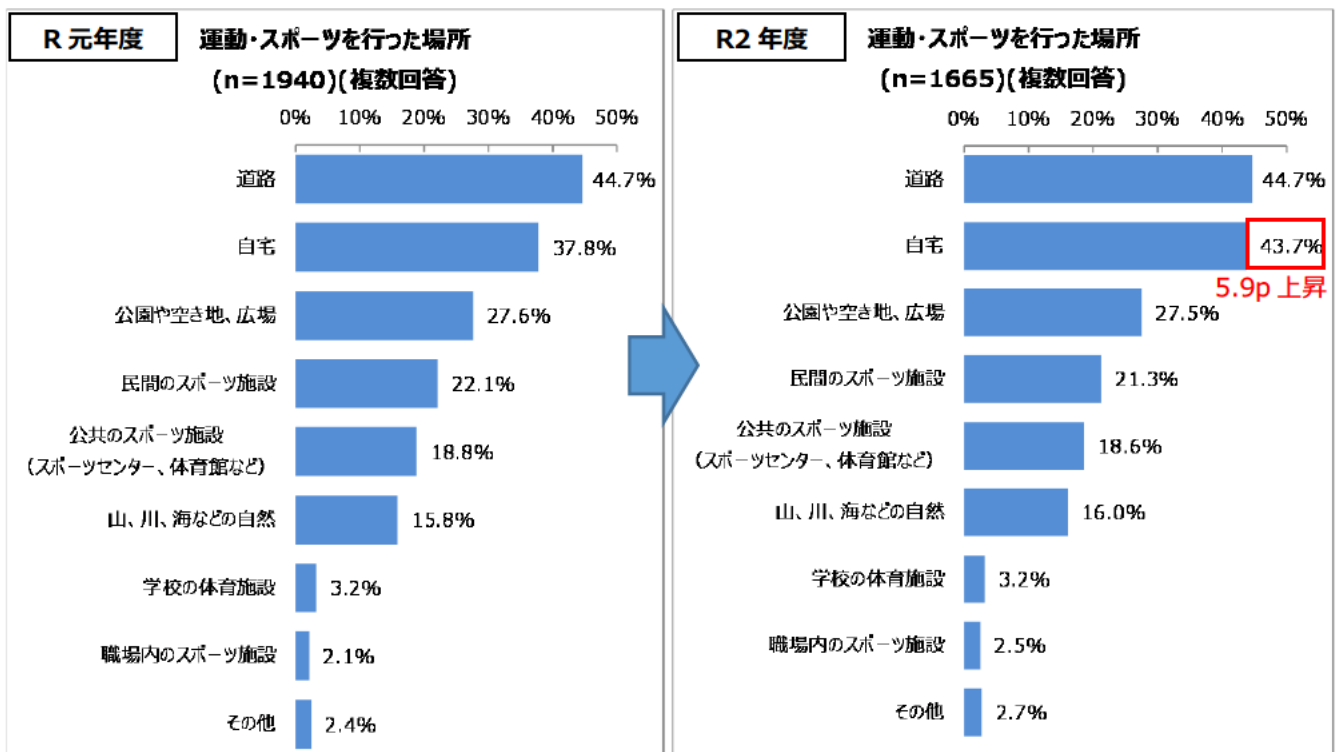
●過去1年間に行った運動・スポーツ

「ウォーキング」「ラジオ体操等」「トレーニング」など、気軽にできるスポーツの実施率が増加している。「ウォーキング」はR元年度44.3%に対し、R2年度は58.4%と14.1ポイント上昇している。



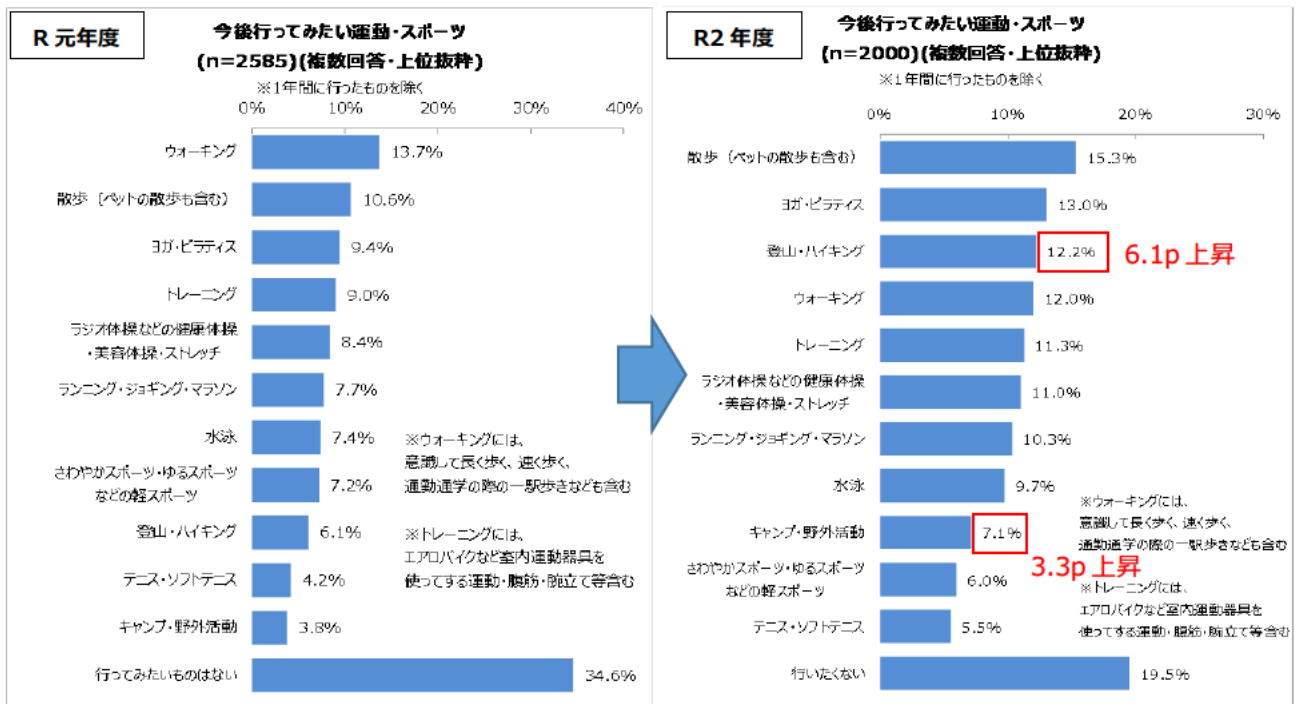
●運動・スポーツを行った場所

「自宅」はR元年度37.8%に対し、R2年度は43.7%と5.9ポイント上昇している。



●今後行ってみたい運動・スポーツ

R元年度に比べR2年度は「登山・ハイキング」が前年9位（6.1%）から3位（12.2%）と大きく順位を上げているのが目立つ。また、前年上位10位以下であった「キャンプ・野外活動」がR2年度は9位（7.1%）となった。



以上の結果から、運動・スポーツを実施する意向が高まっており、軽い運動や身近な場所からの取り組みがみられる。今後は自然の中での活動への意向が見られる。

ラグビーワールドカップ 2019™、東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの関心について

令和元年9月～11月に開催されたラグビーワールドカップは、「ラグビーへの関心が高まった」が令和元年度の18.1%より12.9ポイント増の31.0%となり、市民の関心が高まっていることがわかる。

「オリンピックをテレビ・ネットで観戦したい」は令和元年度の31.4%より3.3ポイント増の34.7%となった。また、「オリンピックを会場で観戦したい」は令和元年度の20.6%より4.9ポイント増の25.5%、「パラリンピックをテレビ・ネットで観戦したい」も令和元年度の13.0%より2.6ポイント増の15.6%となった。

新型コロナウイルス感染症により大会開催が1年延期したものの、大会への関心は昨年度より増していると言える。

Ⅲ まとめ

令和2年度は、「週に3日以上」のスポーツ実施率及び65歳以上の「週に1日以上」のスポーツ実施率、障害のある方の「週に1日以上」のスポーツ実施率が市の目標を上回った。また、スポーツ観戦率以外のすべての項目が令和元年度を上回った。

その要因として、新型コロナウイルス感染症による外出自粛により、運動の必要性に対する認識が高まったことなどが考えられる。

Ⅳ 報告書について

報告書（PDF）は、横浜市ホームページにて公開しています。報告書では、単純集計のほか、性別、年代別、性・年代別、居住区別のクロス集計結果等も掲載しています。

なお、今年度の結果については、調査会社変更に伴い、回答者の特性に違いが生じています。そのため、報告書第6章にて今年度の回答者の属性（職業・収入・結婚・子どもの有無等）を昨年度の属性分布に一致させ、ウェイトを調整したうえで再集計、考察したものを掲載しています。詳細は報告書を御参照ください。

【令和2年度横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版】

令和3年1月
編集・発行 横浜市市民局スポーツ振興課
横浜市中区本町 6-50-10
045-671-3583
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/>